

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ◆ 高い知性、豊かな人間性、健やかな心身を持ち、将来、世界の様々な分野で活躍できる素質を育てる学校。
 - ◆ 国際的な視野を持ちつつ、地域を愛し、地域に積極的に貢献する意欲を持った人材を育成する学校。
- (1) 国際教育及び科学教育等の推進を通して国際間の各種問題に関する教養を身につけさせるとともに、SDG’s の視点を踏まえた幅広い知識や技能を生かした能力を身につけグローバル社会に対応できる人材を育成する。
- (2) 高い学力や自学自習力の他、課題研究等の探究的な学習活動に主体的・協働的に取り組むことを通じて自ら課題を見つけ、その解決法を提案・発信できる力を醸成する。
- (3) 校外の各種団体との連携を図り、地域の教育拠点校として様々な活動に取り組むことを通じて地域の発展を支え、豊かな人間性、社会性を備えた他者を思いやることのできる人を育てるとともに、多様な価値観を理解・受容し、他者と協働する力を育てる。

2 中期的目標

1. 新しい時代のキャリア教育
- 第5期科学技術基本計画において我が国が提唱する未来社会 Society 5.0 を見据え、人工知能の発達やグローバル化のさらなる進展など、これからの変化の激しい時代を生き抜き活躍するための能力の育成を図る。
- ※ 目標：総合型選抜・学校推薦型選抜（旧指定校推薦入試を除く）に強い学校を作り上げ、令和8年度には国公立並びに関関同立における両選抜での合格者数10名以上〔R3：9名、R4：10名、R5：7名〕をめざす。また、海外大学等への進学も積極的に推進する。
 - ア 課題研究等の取組みを通して「自ら課題を見つけ、調査・研究し、分析・考察を行う」能力と「知り得た知識や情報を口頭発表や論文等の形式で他の者にうまく伝える」能力の育成を図る。
 - イ 国内大学のグローバル化、海外の大学への進学ニーズに対応するとともに、課題研究、長期・短期留学論文等を用いた総合型選抜入試への対応を図る。
 - ウ 国際教育の充実を図ることを通じてグローバルキャリア観を醸成する。
 - エ 地域での体験的活動や外部機関との連携等を通して、今後の社会形成に積極的に関わろうとする意欲の醸成を図る。
 - オ 上記活動の拠点として、「Sharebrary（シェアブラリー）」〔R3学校経営推進費によりリニューアルした本校図書館〕を有効活用する。
 - ※ 年間来館者数4000名以上〔R3：1182名(7月迄)、R4：2835名、R5：4485名〕・年間図書貸出数900冊〔R3：538冊(7月迄)、R4：672冊、R5：787冊〕
2. 確かな学力への取組み
- (1) 希望する進路の実現に向けて、『基礎学力の向上』を図る。
- ア 学習状況調査における偏差値を学力向上の『共通指標』とする。
 - ※ 目標 令和8年度 1年・2年の学習状況調査における偏差値（A：60～65、B：55～60、C：50～55）
国際文化科 英語 A：10%、B：20%、C：30% 国語 A：5%、B：15%、C：25%
総合科学科 英語 A：5%、B：10%、C：20% 数学 A：10%、B：20%、C：30% をめざす。
〔R3 ― R4：国際文化科 英語 A：4%、B：10%、C：22% 国語 A：1%、B：8%、C：15%
総合科学科 英語 A：2%、B：3%、C：8% 数学 A：3%、B：11%、C：22%
R5：国際文化科 英語 A：7%、B：7%、C：20% 国語 A：7%、B：11%、C：21%
総合科学科 英語 A：1%、B：4%、C：10% 数学 A：1%、B：5%、C：15%〕
 - イ 学習状況調査のデータ分析を行い、集会や職員会議等を活用して生徒、教員への学習状況のフィードバックを実施する。
- (2) 「魅力的な授業」「わかる授業」の実現と自学自習習慣の確立
- ※ 目標：授業アンケート「(項目8)興味関心」「(項目9)知識技能」の肯定的回答率について毎年85%以上〔R3：87.0%・88.7%、R4：85.7%・88.4%、R5：88.8%・86.4%〕を維持する。
 - ※ 目標：令和8年度には授業外学習時間を週10時間以上行う生徒を35%まで伸長させる。〔R3：26.5%、R4：20.4%、R5：19.9%〕
 - ア あらゆる教育活動を通して生徒の主体的・対話的な学びが生まれる教育実践を行うとともに、教員自らの学びを推進することで授業の質の向上をめざす。
 - イ 授業アンケート結果に対して分析を行うことで、問題点を明確にして授業改善に取り組む。
 - ウ 生徒の自学自習を支援し、自ら学ぶ力を深めるように助力をする。学力支援クラウドサービス（講義動画等）を活用するなど自習環境を整備し、自学自習の習慣の確立をめざす。学習支援クラウドサービス活用の肯定率50%以上〔R3－、R4－、R5：89.8%〕
- (3) 国際理解教育の充実
- ※ 目標：毎年度CEFR（セファール）B2以上（英検準1級、TOEFLiBT72点など）の取得者10名以上〔R3：3名、R4：5名、R5：9名〕及びB1以上（英検2級・TOEFLiBT42点など）取得者120名以上〔R3：111名、R4：111名、R5：112名〕を維持する。
 - ア 国際人としての広い視野と感性を育て、グローバルな社会で活躍できる人材の育成を行う。
 - イ コミュニケーション能力を向上させ、留学や、海外の大学への進学を推奨する中で、世界を視野に入れた人材づくりを行う。
 - ウ 国際関係学科設置校、SGHネットワーク参加校、WWL連携校として、姉妹校交流をはじめとする海外の学生や地域の在留外国人との交流を積極的に行い、体験活動を通して国際性に富む人材を育成する。
 - エ TOEFL、TOEIC、英語検定などの資格試験に積極的に挑戦し、自ら語学力の向上を図る生徒を育てる。
- (4) 科学教育の充実
- ※ 目標：学会や大学、研究会等の発表会において、年間に10件以上〔R3：8件、R4：11件、R5：11件〕の発表を行うことをめざす。
 - ア 総合科学科として、その取組みを深め、多くの実験実習を授業に取り入れ、生徒の学習意欲を高めるとともに、社会を牽引する科学的素養を有する人材を育成する。
 - イ 五感で体得する理科授業をめざして多くの実験実習を授業に取り入れ、その効果的な活用を行う教材を開発する。
 - ウ 大学や企業との連携を推進し、生徒の学習意欲を高める。

3. 進路保障
生徒一人ひとりの進路について、自ら目標を立て、可能性を追求し挑戦する態度を養い、学びの接続を理解し、実現できる生徒を育成する。新しい大学入試制度に柔軟に対応できる進路指導体制の充実を図る。
※ 目標：令和8年度には国公立大学合格者数（現役生）15名以上〔R3：14名、R4：8名、R5：18名〕、関関同立合格者数（現役生）のべ160名以上〔R3：159名、R4：115名、R5：104名〕をめざす。
ア 進路情報の的確な提供と、進路選択のためのきめ細やかな指導を行う。
イ 進路実現に向けた基礎学力向上を図るため、学習支援クラウドサービス（講義動画等）を活用するなど家庭等での学習時間の伸長を支援する。また、進学補習を計画的に実施し、意欲的に学びたい生徒の学習支援を行う。
ウ 普段の学び・活動とその定着が、今後の長い人生の進路キャリアに結びつくことを理解させる。
4. 開かれた学校づくり
（1）地域と連携し、「地域の教育拠点」としての機能を果たす。地元堺市がSDGs未来都市であることを踏まえ、SDGsのNo11「住み続けられる街づくりを」の具現化に取り組む。
ア 地域の小・中学生に対しての科学講座を実施し、地域の科学教育の中核としての地位の確立をめざす。
イ 堺市社会福祉協議会及び地元自治会、地元企業、NPO法人等との連携を深め、各種イベントや社会貢献活動等への積極的な参加をめざす。
（2）学校の特色ある教育活動について幅広く情報発信をすることにより、小・中学生を含む地域の方々に本校への理解を深めてもらう。
ア 学校説明会の充実を図るとともに、学校HPを含め様々な情報メディアを活用し、きめ細やかな情報の発信を行う。
5. 活気と規律があり、生徒が安心して生活できる学校づくり
生徒一人ひとりを大切にするとともに、自主性の向上をめざす。
※ 目標：学校教育自己診断(生徒)「部活動と学習の両立」の肯定率 60%以上〔R3：57.3%、R4：59.9%、R5：58.1%〕、学校教育自己診断(生徒)における「生徒の生徒会行事参加」の肯定的回答80%以上〔R3：83.6%、R4：89.3%、R5：87.3%〕をめざす。
ア 個別に支援が必要な生徒への対応について、校内の組織で情報共有を密に行い、きめ細やかな運用を実施する。
イ 部活動を活性化し、参加者を増加させるとともに、その内容の充実を図る。また、学習と部活動を両立することのできる生徒を育てる。
ウ 基本的な生活習慣の確立や、情報活用能力、情報モラルを身につけるとともに、規律ある行動をとることのできる、社会性の豊かな生徒を育成する。
エ 生徒会活動を活性化し、学校行事やボランティアなどの体験的活動を充実させ、「生きる力」を育む。
6. 教職員の資質向上
（1）学校力向上のための職員研修の充実
ア 教職経験の少ない教員のスキルアップを図るためテーマ別の研修会を開催する。
イ 職員人権研修を計画的に実施する。
（2）教職員の働き方改革
ア スクラップ&ビルドによる業務のスリム化や様々な方策により働きやすい職場づくりを進める。
イ ICT機器等を積極的に活用することにより、各種業務の時間短縮を図る。
ウ 年間平均時間外在校等時間を縮減する。〔R4：34時間7分、R5：32時間9分（2月末現在）〕

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
○項目1「泉北高校での充実感」について、生徒（96.1%）、保護者（90.5%）、教員（93.1%）ともに高い肯定率を維持している。生徒、保護者とも昨年度より上がっており、本校の教育活動について全体的に理解を得ていると認識しており、今後も継続できるよう努めたい。 ○項目2「授業改善」について、生徒の肯定率が昨年度に引き続き上昇し90%を超えた。ICTの活用や授業アンケートを受けて教員の授業の工夫改善に向けての取り組みが生徒に伝わっていると考えられる。また、教員の肯定率についても88%に高い肯定率だが、5%程度下がった。 ○項目3「家庭学習促進・宿題」の肯定率は、生徒の回答が96.6%と昨年度（88.8%）よりも上昇し、教員の回答も昨年度より上昇、家庭学習の大切さを伝えている。 ○項目4「講習への参加」は生徒の回答が昨年度（56%）から48.8%と下降、しかしながら、また、項目28「週10時間以上の学習」については20.6%と昨年同様、低い状態となった。項目3の家庭学習を促進しているが学習時間の増加には、つながっていない。引き続き生徒の家庭学習・学力向上への意識の向上を図りたい。また、項目18で「部活動との両立ができている」が、58.1%で高い肯定感があり、項目18と28の乖離が課題である。 ○項目11・12の「進路指導・キャリア教育関連」の生徒の肯定率がそれぞれ90ポイント以上と学習状況調査の分析などのフィードバックに取り組んだ成果が表れている。肯定感が高いが、進路実績につなげる必要がある。 ○項目23「泉北生であることが誇り」について、肯定率が84.4%で、昨年の84.8%とほぼ同様であった。探究活動などで地域から必要とされていることも肯定感に繋がっていると考えられる。 ○項目29の「学校は1人1台端末の効果的な活用」（生徒）については、肯定率が73.7%と昨年度より20%程度低下している。活用はできているが、使用の仕方にマンネリ感が出ていると考えられる。 ○教員の学校教育自己診断の項目について、教員自身のやりがいや働き方改革などの項目を盛り込む必要がある。	第1回 7月23日（火） 定員増やしたのに定員割れが起こっている。なぜ定員を増やしたのか？再編のために意図を持ってやっているのではないか？私立の無償化が大きな要因。大学受験を考慮した場合、一つ上の公立高校をめざそうとする。可能性があるなら一つ上の学校をめざしたいという心理が働く（無償化のため）鳳高校が定員が割れた理由は、生徒が冒険する（私学通っているため）学校に特徴があるのが重要。もっと特徴を明確化。私学が無償化になった以上、学校の特徴を作ること。人間は感動すると心に残る。この高校に行ったらこんなことができるかもしれない。メッセージ性があるか無いか、とがっているか、なんとなく広報活動していたら、どこであろうが厳しくなっていくだろう。ここに預けたら、3年でこんな子に育ってくれるだろうなあ、と思わせること。校長ブログ以外のメディアはあるのか？HPだけでは、ブログは見ないのでは？Xのアカウントを公立大は行っている。何かネタを作ってほぼ毎日UPしている。学生や教員全てが行っている。フォロワー数を観察しながら広報効果を計る。もし中学生向けにするならSNSを考えてみては？中学生との連携も必要なのでは？どの中学から来ているか？出身者がいる中学をピックアップして訪問する。大学生を採用したいという企業さんは本気度が全然違う。大学出身のOBを連れてきて年齢の近いもの通しつながりを持たせることで入社してもらおうとする。出身中学にOBを派遣してみてもどうか？ 第2回 11月20日（水） 授業見学について…授業の導入や図などに時間を取られていたが、今ではICTを駆使して、かなり楽になっている。量を各授業において時間短縮になる。ビジュアル的に見られることから下準備は大変だが、今後活用できる。ただし、記憶に残る、という点において、効率化も重要だが、記憶にいかに残すか、という部分で手書きが有効である。英語では、新しい単語が出てくると、Weblioを活用しているが、CMが出るので、不便。今後はBingなどのAIを活用すると幅広く活用できる。いかに上手にAIを活用してくかが今後も重要である。AIの使い方をリテラシーも含めて考えるべき。 第3回 1月31日（金） 泉北高校の特徴を生かした教育が根付いている。地域との繋がりやSSHの活動の継続。本質的に子供のやりたいことをさせてあげるんだということが大事。学校説明会は午後は中学生忙しいので、午前で終わらせるべき。科学実験教室は種まきでもっと低学年で行うべき。子どもたちの心身の不調は激増している。原因不明のまま、精神疾患になって

府立泉北高等学校

	しまっている。データを集めたほうがいい。スピーチコンテストやレシテーションコンテストなど、一部の生徒のプレゼンテーション能力は非常に高いが、全体としてはどうか？ペアワーク・グループワークが多い（全教員授業見学の結果）ので、発言力は上がっているが、設定条件がないとしゃべらなくなる、そこをどうするか？キャリア系の授業の際に、活発に質問できる生徒や、意見を述べる生徒は少ない。多くは他力本願の生徒が多い。ベンチャー系の人々にとっては危機的な状況。大人しい生徒の意見を言えるような生徒を育てる（ICT 技術等を駆使して）環境を作ってみては。活発な外部活動は教員の負担になるのでは？教員間での意思疎通や業務量分担など、一部の教員に業務が集中することを避けるべき。生徒のメンタルもそうだが、教員のメンタル保障もしっかりしていく必要がある。管理職がリーダーシップをとって改善してほしい。支援を必要とする生徒が増えている。病院に勤務しているが、患者や家族の質が変わってきている。心の障がいがある生徒と関わっているが、昔と変わってきていることを体感している。学校の中の問題や病院の中の問題、実は日本社会全体がおかしくなっているのではないかな？問題が起きていることに対しての認識を持って、未来を繋いでいってもらいたい。泉北の特徴を維持していただきたい。生徒の主体的なマインドづくり。支援が必要な生徒について：学校としてできることを最大限おこない、難しいところはいかにして専門分野と繋がるか、を大事にしたい。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 新しい時代のキャリア教育	ア 次代に求められる能力の育成	ア ・SGH 事業及びSSH 事業で培った知識や技能を踏まえ、課題研究の計画的実施とさらなる充実を図る。 ・課題研究への取組みと進路への導線づくりのため、生徒の3年間の取組みについてキャリアパスポート等を作成し活用する。 ・外部機関との連携事業や社会貢献活動への積極的な参加を促す。	ア ・課題研究発表会の開催 ・外部機関との連携事業参加者 120 名以上 [301 名] ・社会貢献活動参加者 100 名以上 [301 名]	ア ・6 月に3年生が大阪公立大学のホールにて、11 月に2 年生中間発表会を校内で開催（○） ・外部機関との連携事業については、招待いただく件数が年度当初の予定より多くなったことから参加者は 233 名（◎） ・社会貢献活動参加者は、依頼をいただく件数が年度当初の予定より多くなったことから参加者は 284 名（◎）
	イ 進学の多様性への対応	イ ・探究的な活動に基づいた統合的取組みを進路実現に結びつける。多面的な評価による入試（総合型選抜）枠での受験を推奨する。 ・留学や海外進学の説明会を行い、留学や海外の大学への進学推奨を一層進める。	イ ・総合型選抜や学校推薦型入試（旧指定校推薦入試を除く）での国公立並びに関関同立への合格者 10 名以上 [7 名] ・海外進学者 2 名以上 [0 名]	イ ・総合型選抜や学校推薦型入試（旧指定校推薦入試を除く）での国公立並びに関関同立への合格者 12 名（○） ・海外留学・進学説明会を開催したが海外進学者は 1 名（△）
	ウ 国際教育の充実によるグローバルキャリア観の醸成	ウ ・姉妹校等海外の学校との交流を継続するとともに、国境を越える活動やグローバル企業への訪問、有名大学生とのディスカッション等を行う「プロジェクト型海外研修」を実施する。	ウ ・姉妹校と交流を対面で復活 ・海外の学校や在留外国人との交流機会 7 回以上 [対面 6 回、オンライン 2 回]	ウ ・10 月にオーストラリアモスマン高校の姉妹校より 17 名が来校し、生徒交流、ホームステイ実施。台湾の姉妹校である中壠高級中等学校 30 名とも交流（○） ・4 月に台湾中壠高級中学校、7 月に姉妹都市パークレー高校より 6 名対面交流。オンライン交流 2 回実施。8 月に海外研修（セブ島）実施（○）
	エ 地域での体験的活動や外部機関との連携	エ ・Sharebrary（シェアブラリー）を地域連携及び探究活動・課題研究、国際交流の拠点として有効活用する。	エ ・地域連携関連会議年間 4 回以上開催 [7 回] ・年間来館者数 3500 名以上 [4485 名] ・年間図書貸出数 750 冊以上 [787 冊]	エ ・地域連携関連会議年間 6 回（○） ・年間来館者数 4825 名（◎） ・年間図書貸出数については、上記の通り来館者数は増加したものの、Sharebrary（シェアブラリー）内での協同的活動が増えたため、館外への持ち出しは 501 冊（△）
2 確かな学力への取組み (1) 魅力的な授業・わかる授業の実現と	ア基礎学力の向上	ア ・希望する進路の実現に向けて『基礎学力の向上』を図るため、学習状況調査のデータ分析を行い、集会や職員会議等を活用して生徒、教員への学習状況のフィードバックを実施する。	ア ・1 年・2 年の学習状況調査における偏差値（A：60～65、B：55～60、C：50～55） 国際文化科 英語 A：5％、B：15%、C：25% 国語 A：5％、B：15%、C：25% 総合科学科 英語 A：3％、B：5％、C：12% 数学 A：5％、B：15%、C：25% をめざす。 [国際文化科 英語 A：7％、B：7％、C：20% 国語 A：7％、B：11%、C：21% 総合科学科 英語 A：1％、B：4％、C：10% 数学 A：1％、B：5％、C：15%]	ア ・両学科とも目標達成ならず。 国際文化科 英語 A：4％、B：8％、C：15%（△） 国語 A：1％、B：5％、C：8％（△） 総合科学科 英語 A：3％、B：2％、C：9％（△） 数学 A：1％、B：4％、C：14%（△）
	イ・ウ 授業改善	イ・ウ ・授業力向上をめざした教員授業研修を実施する。 ・授業見学月間（6 月、11 月）を実施する。	イ・ウ ・授業アンケートの肯定率 「(項目 8)興味関心」85%以上 [88.8%] 「(項目 9)知識技能」85%以上 [86.4%] ・テーマを定めた教員授業研修の実施	イ・ウ ・昨年度より下がったがほぼ目標値と同数値となった 「(項目 8)興味関心」84.3%（△） 「(項目 9)知識技能」84.8%（○） ・教員授業研修「カリキュラム・マネジメントの充実に向けて」をテーマに実施（○）

府立泉北高等学校

自 学 自 習 習 慣 の 確 立	エ 自学自習の習慣確立	エ ・シェアブラリー利用の推進を図る。 ・個別相談や希望講習の充実に努めるとともに、スケジュール管理について指導する。 ・学習支援クラウドサービス（講義動画等）を活用する。 ・卒業生等を活用し、学習活動をサポート（多言語学習支援等）する。	・授業見学を行った教員 95％以上 [96％] エ ・学校教育自己診断（生徒）における授業外学習時間 週 10 時間以上の割合 1 年 12％・2 年 15％・3 年 65％以上 [1 年 6.0％・2 年 8.4％・3 年 46.8％] ・学習支援クラウドサービス活用の肯定率 50％以上 [89.8％]	・授業見学 6 月、9 月に実施し 98.4％（◎） エ ・1 年 16％、2 年 13.5％、3 年 50％（△） ・学習クラウドサービス活用の肯定率 86％（◎）
(2) 国際理解教育の充実	ア・イ・ウ・エ ・グローバル人材の育成 ・SGH 事業の継続 ・国際交流の実施 ・英語力の底上げ	ア・イ・ウ・エ ・SGH ネットワーク参加校として、SGH 事業において培った、効果的な取組みの継続を図る。 ・プロジェクト型海外研修を実施するなど、海外の学生等との交流の機会を確保する。 ・NET 等を効果的に活用し、英語によるプレゼンテーション能力及び会話を向上させる。 ・生徒の英語 4 技能の能力の底上げを図るため、生徒のニーズに合わせた資格検定試験の受験を奨励する。 ・スピーチコンテスト（2 学年国際文化科）及びレシテーションコンテスト（1 学年全員）を実施する。 ・総合科学科において、「科学英語プレゼンテーション」を募集し、研究成果を英語で発表できることをめざす。	ア・イ・ウ・エ ・CEFRB 2 以上（英検準 1 級、TOEFLiBT72 点等）取得者 10 名以上 [9 名] ・CEFRB 1 以上（英検 2 級・TOEFLiBT42 点等）取得者 120 名以上 [112 名] ・海外の学校や在留外国人との交流機会 7 回以上 [対面 6 回、オンライン 2 回]【再掲】 ・総合科学科課題研究の発表要旨を全グループが英語で作成	ア・イ・ウ・エ ・CEFRB 2 以上（英検準 1 級、TOEFLiBT72 点等）取得者 2 名 ・CEFRB 1 以上（英検 2 級・TOEFLiBT42 点等）取得者 139 名 ・4 月に台湾中壢高級中学校、7 月に姉妹都市バークレー高校より 6 名対面交流。オンライン交流 2 回実施。8 月に海外研修（セブ島）実施（○） ・全グループが英語で作成するには至らなかった（△）
(3) 科学教育の充実	ア・イ・ウ・エ ・科学教育事業の推進 ・グローバル社会を牽引する人材の育成 ・五感で体得する理科授業 ・高大、企業連携	ア・イ・ウ・エ ・課題研究の成果と進学実績への結びつきを意識して、国公立大学の総合型選抜や公募推薦での合格をめざす。 ・課題研究を深めて、学会、研究会等での発表をめざす。 ・理数理科での実験実習の実施率を維持するとともに、より効果的な新しい実験・実習に取り組む。 ・大学や企業との連携を継続する。 ・海外高校生との国際交流をめざす。	ア・イ・ウ・エ ・国公立大学及び高等専門学校の総合型選抜・公募推薦の合格者 5 名以上 [4 名] ・学会、研究会等での発表件数のべ 10 テーマ以上 [のべ 11 件] ・実験の実施率 25％以上 [24.9％]	ア・イ・ウ・エ ・国公立大学及び高等専門学校の総合型選抜・公募推薦の合格者 6 名（○） ・学外発表 16 回（◎） 大阪サイエンスデイ 1 部 8 チーム 48 名参加 2 部 3 チーム 15 名参加 堺市環境政策課環境人材プロジェクト 7 名参加 大阪学生科学賞 優秀賞 1 点 ・実験の実施率 26.8％（○）
3 進路保障	ア・イ ・進路情報の提供 ・補習等の実施	ア・イ ・高い目標を持ち、進路実現に向けて挑戦する態度を養う。 ・進路 HR で進路選択に関わる情報提供（大学・予備校の講師による進学講話等）を行う。 ・オープンキャンパスへの積極的な参加を奨励する。 ・希望する進路の実現に向けて『基礎学力の向上』を図るため、学習状況調査のデータ分析を行い、集会や職員会議等を活用して生徒、教員への学習状況のフィードバックを実施する。【再掲】 ・長期休業中の希望講習の充実に努める。	ア・イ ・国公立大学合格者数（現役生）増 [18 名] - 関関同立合格者数（現役生）増 [104 名] ・オープンキャンパスへの 2 年生全員参加	ア・イ ・国公立大学合格者数（現役生） 21 名（○） - 関関同立合格者数（現役生） 121 名（○） ・2 年生全員参加（○）
4 開かれた学校づくり (1) 地域連携	ア地域の小・中学生に対する科学講座の実施 イ 堺市等との連携	ア ・小・中学生対象の科学講座を定期的、継続的に実施する。また、夏期休暇中に自由研究の指導なども行う。 イ ・「SDGs 未来都市」である堺市の「SDGs 推進プラットフォーム」に加盟し、様々な企業・行政・団体・教育委機関との連携を進める。 ・SDGs の目標達成のために自分たちができることを課題研究として実施する。ゴール 11「住み続けられる街づくりを」をテーマの一つに設定し、「私たちが住む堺市を、環境、人権、生き甲斐などにおいて世界に誇れるモデルタウンにする」という目標を持って社会貢献できる取組みを追求する。 ・地元の福祉施設への訪問や地域活性化のためのイベント運営等、各種ボランティア活動に積極的に参加する。	ア ・各種小・中学生対象講座等への参加児童生徒数合計 200 名以上 [224 名] イ ・外部機関との連携事業参加者 120 名以上 [301 名]【再掲】 ・社会貢献活動参加者 100 名以上 [301 名]【再掲】 ・校外での発表等のべ 5 件以上 [23 件]	ア ・これまでの活動の成果として多くの要望をいただき、参加児童生徒数合計 506 名（◎） イ ・外部機関との連携事業については、招待いただく件数が年度当初の予定より多くなったことから参加者は 233 名（◎） ・社会貢献活動参加者は、依頼をいただく件数が年度当初の予定より多くなったことから参加者は 284 名（◎） ・校外での発表など 17 件（◎）
(2) 学校広報活動の充実	ア 学校説明会の充実と情報発信	ア ・行事報告、各種ブログ等を学校 HP に掲載し、学校の様子をほぼリアルタイムに伝える。 ・SNS 等を活用し、保護者への学校行事活動の周知を行う。 ・学校説明会では在校生が活躍する場面を多く作るなど、本校をより身近にまた、魅力を感じる学校説明会となるよう工夫する。	ア ・学校 HP による報告等 120 回以上 [275 回] ・校内学校説明会への参加者 1000 名以上（生徒・保護者含む）[生徒 565 名、保護者 482 名、計 1047 名]	ア ・学校 HP による報告等 291 回（◎） ・校内学校説明会への参加者（生徒・保護者含む）1050 名（生徒 510 名、保護者 540 名） 学校説明会終了後、中学生向けの科学実験教室を実施（○）
5 活気と規律があり	ア 校内の支援組織の整備	ア ・高校生活支援カードを活用し情報共有を図るとともに、個別の支援を必要とする生徒に対して必要に応じ個別の教育支援計画を作成し、包括的な支援体制を充実させる。 ・教育相談機能を充実させ、課題や悩みを抱える生徒の状況把握などに組織的に取り組む。 ・いじめアンケートを活用するとともに、いじめ防止対策委員会による検討会議等を実施し、いじめの未然防止に努める。	ア ・支援会議及びいじめ防止委員会の隔週開催 ・学校教育自己診断（生徒）における「相談体制」の肯定率 65％以上 [71.1％] ・いじめにつながる事象を把握した際の早期情報共有と、発生時の組織的に対応	ア ・支援会議及びいじめ防止委員会の隔週開催（○） ・「相談体制」の肯定率 74.2％（◎） ・早期発見のための情報共有を積極的に行った（○）

府立泉北高等学校

生徒が安心して生活できる学校づくり	イ 部活動の活性化と学習と部活動の両立の促進 ウ 情報モラル等の育成、生活規律の向上の確立 エ 生徒会活動の活性化	・防災訓練（年2回）とともに安全点検（学期終了時）や救急処置講習会等を実施し、防災安全に努める。 ・各学年において人権 HR の充実を図り、人権の尊重、生命の大切さなどについて学ばせる。 イ ・中学生対象の体験入部、新入生歓迎会など、人との交流を通じた生徒の多様な学びの場である部活動の活性化に向けた取組みを実施する。 ・部活動参加者の進路実現に向けて、学習支援クラウドサービスを活用し、学習と部活動との両立を図る。学習意欲向上に向けた分析と対策を実施する。 ウ ・生成 AI 等の新たな技術サービスが生まれる中、情報活用能力、情報モラルを育成する。遅刻の実態調査、交通ルール遵守の姿勢を育て薬物乱用防止教育にも取り組み生活活規律を向上させる。 エ ・学校行事やボランティアなどの体験的活動の充実を図るとともに、生徒の自主的な運営を支援する。	・地域の防災士を招聘して、防災訓練を実施する。 ・学校教育自己診断（生徒）における「道徳教育」の肯定率 78%以上 [83.2%] イ ・新入生歓迎会の実施 ・学校教育自己診断(生徒)における「部活動と学習の両立」の肯定率 60%以上[58.1%] ウ ・SNS 等の情報モラルや交通安全についての講演を実施する エ ・学校教育自己診断(生徒)における「生徒の生徒会行事参加」の肯定的回答 80%以上 [87.3%]	・南区より防災訓練時に防災士の派遣を依頼し、指導助言をいただいた（○） ・「道徳教育」の肯定率 84.8%（◎） イ ・新入生歓迎会実施（○） ・「部活動と学習の両立」の肯定率 60.2%（○） ウ ・SNS 等の情報モラル、交通安全指導について専門家が来校し講演を実施（○） エ ・「生徒の生徒会行事参加」の肯定的回答 91.2%（◎）
6 教員の資質向上	（1）学校力向上のための職員研修の充実 ア 教職経験の少ない教員のスキルアップ イ 職員研修の実施 （2）教職員の働き方改革	ア ・教職経験 3 年めまでの教員を対象とした研修を実施し、若手教員の資質向上を図り、ミドルリーダー育成の基盤をつくる。 イ ・職員人権研修を計画的に実施し、教員の人権感覚の向上に努める。 （2） 年間平均時間外在校等時間を縮減する。	ア ・3 年め研修の各学期 1 回以上の実施 [6 回] イ ・職員人権研修の年 2 回実施 [2 回]	ア ・各学期に 2 回行い、計 6 回実施（○） イ 職員人権研修 2 回実施 ・6 月に「多言語生徒支援」、10 月に「同和問題」について実施（○） 前年比約 4 時間増（△）